

はままつじょうはくつうしん  
浜松城発掘通信

№3

浜松市文化財課 2012年6月18日

新しい時代の礎石（そせき）と石列が見つかりました

浜松城天守門跡（てんしゅもんあと）の発掘調査を6月4日（月）から行っています。今回の調査では、地面から約30cm掘り進めたところで、近代（大正時代～昭和前半）の建物跡の礎石



発掘作業の様子

（そせき）や階段や道に使用された石列が見つかりました。今後は、さらに30cm程掘り進めていきます。

掘り進めていくと、江戸時代の天守門に使われた礎石にかかわる遺構が見つかるはずです。過去に発掘し、出土したものの一部は、現在、浜松市博物館や浜松城天守閣内に展示されています。



石列の様子



建物の礎石

## 気賀高校職場体験

6月12日～14日までの三日間、気賀高校の1年生が浜松城発掘調査現場にて、職場体験を行いました。作業は、ハードワークでしたが、最後まで粘り強く取り組むことができました。



## 青山家御家中配列図（17世紀後半）



絵図は、南を上にして描かれていますが、写真は、北を上にしています。当時の絵図には、天守門が櫓門（やぐらもん）として描かれている。また、天守門の両側には、漆喰（しっくい）と見られる土塀が天守曲輪を囲っている。

絵図を見ると、天守台には、天守閣の表現はなく、すでに17世紀後半には、天守閣が存在しなかったと考えられる。

## 発掘調査現場は見学できます

浜松城跡の発掘調査は、平日の午前9時から午後4時30分まで実施しています。作業時間内でしたら、発掘現場は見学できます。お気軽に担当までお問い合わせください。なお、雨天時や土日は、作業を休止します。作業時間以外の現場立入は、危険ですので、ご遠慮いただきますよう、お願い申し上げます。

